資料－1

社会との対話の仕組み（案）

社　　会

社会からの問い合わせ

複数のアクセス手段
・インターネット
（HP、e-mail）
・学会誌
・電話、FAX

「目利き」による社会への情報発信

社会からの問い合わせへの回答

インターネット上の討議場

会員が個人として対応

フリーデッスカッションが基本

・会員の自由な意見・回答を全て掲載
・記名制（実名、ペンネーム選択可）

・回答が出ない
・議論が紛糾
・話題が欠ける

・回答作成
・遵守事項
・免責条項

「目利き」による場の管理・運営と社会への情報発信
「登録回答者」による議論の誘導と活性化

（目利きの必要要件）
・高度な専門知識と社会常識
（目利きの役割）
・学会として必要な社会への情報発信項目を Web・学会誌等へ投げかける
・チェックの後、回答作成の依頼・要請
・遵守事項，免責条項の作成，維持
・規則が守られていることを確認
・違反者の排除
・堂々巡りの議論を断ち切る

（登録回答者の必要要件）
・専門知識と社会常識
（登録回答者の役割）
・フリーディスカッションへの積極的な参加
・目利きから依頼された項目への回答
・目利きが提示する情報発信項目に対して適切な意見を出す
・議論の方向性をコントロール

・学会として扱うべき課題など

活発な討議と学術的検討の場

学会公式行事として対応

［メンバー］
・インターネット上の議論の参加者
・公募
・非会員

［形式］
・インターネット上の討論会
・特別委員会
・シンポジウム

資料－１　解説

社会との対話の仕組み（解説）

＜「仕組み」の補足説明＞

・「目利き」による社会への情報発信
　一般の問合せと同様に，インターネット上のフリーディスカッションへ投げかける。
・インターネット以外からの問合せ
　インターネット上で回答する他に，別手法での回答を行う。
・「目利き」が「登録回答者」に回答の依頼・要請を行う項目
　誰も回答しない／答えているが不十分または誤答
・「目利き」が「学会公式行事」として選定する項目
　答えが難しく回答者集団では不十分な項目
　社会への情報発信項目として議論を行い，さらなる討議が必要な項目

＜登録回答者グループ案＞

「鋼・コンクリート」「地盤・基礎」「流域・都市」「交通」「調査・計画」「設計」「施工・マネジメント」「メンテナンス」「防災」「環境」「総合」の 11 グループ

グループ毎に 10 名程度のボランティアを確保したい
　特別上級技術者：2～3 名　←　グループの統括
　上級技術者相当：3～4 名　←　実務経験者
　若手ボランティア：3～4 名　←　現場最前線で働く人
　学生ボランティア：1～2 名　←　若手の目

各グループから 1 名ずつ代表者を選出し「事務局」を構成する。
　事務局＝情報発信推進委員会（仮称）

事務局から 3～5 名程度の「目利き」（場の責任者）を選出する。

＜課題＞

・　どのような問合せがくるか。
・　回答がどれだけくるか。
・　回答の質（正確性）と迅速性を確保する。
・　議論において自分の所属組織を斟酌しがち（公平性の確保）
・　遵守事項，免責事項を徹底する必要がある。
・　非会員を回答者として登録できるか。
・　個人レベルでどこまで答えられるか。